

資料1

第２期富山県中山間地域創生総合戦略の推進について

富山県地方創生局
ワンチームとやま推進室
中山間地域支援・移住促進課

富山県

中山間地域の現状

現状・課題

●人口減少と高齢化の進行

県全体よりも速いスピード人口減少

	県全体	中山間地域
2020～2050年の減少率	26%	44%
2050年の高齢化率	41%	49%

県外からの移住者は年々増加する一方、
県外出身者の県内就職率は約２割と低い状況

●生活環境への影響

水害・土砂災害の激甚化・頻発化、鳥獣被害、持続可能な地域交通の確保、医療・介護人材不足、空き家の増加、デジタル格差

●産業への影響

県の耕地面積・農家数の約４割を占める。
地理条件が不利（小区画、急勾配）
集落の共同活動が困難になり、農業施設の機能低下や農村社会の維持が懸念
農林業の人材不足・育成
「農泊」など魅力が活かせる一方、商店の廃業が増加

新たな動き



住民主体の地域づくりの広がり

「話し合い」促進事業、チャレンジ支援事業の広がり
地域運営組織の形成・増加、農村RMO形成推進



田園回帰の潮流

移住相談の増加、地域おこし協力隊、特定地域づくり事業組合制度など地方への人の流れを後押し



多様な働き方と新たなビジネス

テレワーク・副業兼業の浸透、スタートアップ支援の強化、起業・多業など新たな働き方の広がり



新しい技術の進展

デジタル技術による行政・生活のサービスの向上
スマート農林業の推進
地域活動・観光へのデジタル活用



国等の動き

半島振興法等関係法令の一部改正、地方創生の新たな展開、県の新たな総合計画の策定

第２期富山県中山間地域創生総合戦略

「富山県中山間地域における持続可能な地域社会の形成に関する条例（H31.3制定）に基づき、
中山間地域施策を総合的に展開するために令和8年３月に策定。　**＜計画期間　令和７年度～11年度＞**

みんなでつくる「持続可能な“さとやま”」スマートさとやま　2.0

より発展・進化したさとやまにアップデート

新たな課題

これまでのやり方だけでは、地域活動の維持が困難になる懸念

取り組み



新たな地域コミュニティづくり
多様な人材の受入れ、近隣地域や企業等との連携により
新たな地域コミュニティ運営の仕組みを模索



仕事・雇用・交流の創出
多様な働き方や新たな仕事・雇用を生み出し、若者の定着や
地域間交流を図る



安全・安心な生活環境づくり
新しい技術を活用し、安全・安心な生活環境を確保



目指す姿



「人口減少社会に適応した持続可能な地域づくりの実現」

☆多様な人材の活躍
地元の若者／女性／移住者／関係人口／地域おこし協力隊等の外部人材／企業／NPO

☆様々な分野で新しい技術を活用
農業／交通／福祉／防災　など、効率化・省力化された、よりスマートな地域の仕組みづくり

第２期富山県中山間地域創生総合戦略

総合戦略の目標と施策の展開

３つの観点



地域コミュニティの自治力強化 地域の保全

- 「住民主体の地域づくり」を推進し、将来の人口構造を踏まえ、新たな地域コミュニティの仕組みづくりに取り組みます。
- 移住者や関係人口の増加を図り地域の魅力や環境の保全を目指します。



地域特性を活かした経済の活性化

- 中山間地域ならではの「強み」や「魅力」を再発見し、それを活かした新しい仕事や雇用、地域内外の人のつながりを生み出すことで、地域の経済を活性化し、若者が住み続けたい、移住したい魅力的な地域を目指します。



安全・安心な暮らしの確保

- 災害に強い地域の構築、日常生活を支える地域交通や買い物、医療・福祉サービスの充実により誰もが安全に安心して暮らし続けられる地域を目指します。

基本的施策

① 住民主体の地域づくり

② さらなる移住促進、関係人口の創出・拡大

③ 魅力あふれる地域づくり

④ 地域の特性を活かしたビジネスの振興

⑤ 中山間地農業の活性化

⑥ 林業及び木材産業の活性化

⑦ 鳥獣被害の防止等

⑧ 災害に強い地域づくり

⑨ 日常生活を支えるサービスの確保や取組の推進

⑩ 医療・福祉サービスの確保

第２期富山県中山間地域創生総合戦略

＜施策体系＞

新たな総合計画の12の政策分野を反映

観点１：地域コミュニティの自治力強化、地域の保全

- 「住民主体の地域づくり」を推進するとともに、将来の人口構造を踏まえ、新たな地域コミュニティの仕組みづくりに取組む。
- また、移住者や関係人口の増加を図り、地域の魅力や環境の保全を目指す。

1 住民主体の地域づくり	①住民主体の地域づくりの促進　②地域運営組織の整備及び地域間の連携強化 ③多様な人材が活躍する地域づくり　④次世代を担う人材の育成
2 さらなる移住促進、関係人口の創出・拡大	①移住・UIJターンの促進　②中山間地域と都市との交流促進　③空き家の利活用の推進
3 魅力あふれる地域づくり	①自然豊かで美しい里山や農村環境の保全 ②伝統文化の保存・継承、文化やスポーツを通じた地域活性化 ③地域の魅力を活かした子育てや教育環境の充実

観点２：地域の特性を活かした経済の活性化

- 中山間地域ならではの「強み」や「魅力」を再発見し、それを活かした新しい仕事や雇用、地域内外の人のつながりを生み出すことで、地域の経済を活性化し、若者が住み続けたい、移住したい魅力的な地域を目指す。

4 地域の特性を活かしたビジネスの振興	①創業機運の醸成、新たなビジネスの創出　②多様な就労機会の確保や企業等の誘致 ③高付加価値化による地域産業の振興　④魅力ある地域資源の磨き上げ、観光を担う人材の育成 ⑤再生可能エネルギー源の活用
5 中山間地農業の活性化	①農業の担い手確保・育成　②スマート農業の推進　③競争力のある農産物や薬用作物等の生産 ④農村RMOを核とした農村の維持・活性化　⑤農福連携の推進
6 林業及び木材産業の活性化	①林業の担い手確保・育成　②林業イノベーションの推進による生産性向上 ③県産材の安定供給体制の整備と木材需要拡大
7 鳥獣被害の防止等	①野生鳥獣の適正な保護と管理　②地域ぐるみの鳥獣被害対策の推進　③ジビエの利活用

観点３：安全・安心な暮らしの確保

- 災害に強い地域の構築、日常生活を支える地域交通や買い物、医療・福祉サービスの充実により、誰もが安全に安心して暮らし続けられる地域を目指す。

8 災害に強い地域づくり	①治山・治水・土砂災害対策　②ライフラインとなる道路の計画的な整備・レジリエンスの強化 ③公共インフラの耐震化、老朽化対策　④地域防災力の強化
9 日常生活を支えるサービスの確保や取組の推進	①持続可能で最適な地域交通サービスの確保・向上　②買い物支援の推進　③除排雪の推進
10 医療・福祉サービスの確保	①心とからだの健康づくり　②地域医療提供体制の確保・充実 ③地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制の整備 ④介護・福祉人材の養成・確保と介護テクノロジー導入の推進

第２期富山県中山間地域創生総合戦略

【参考指標】

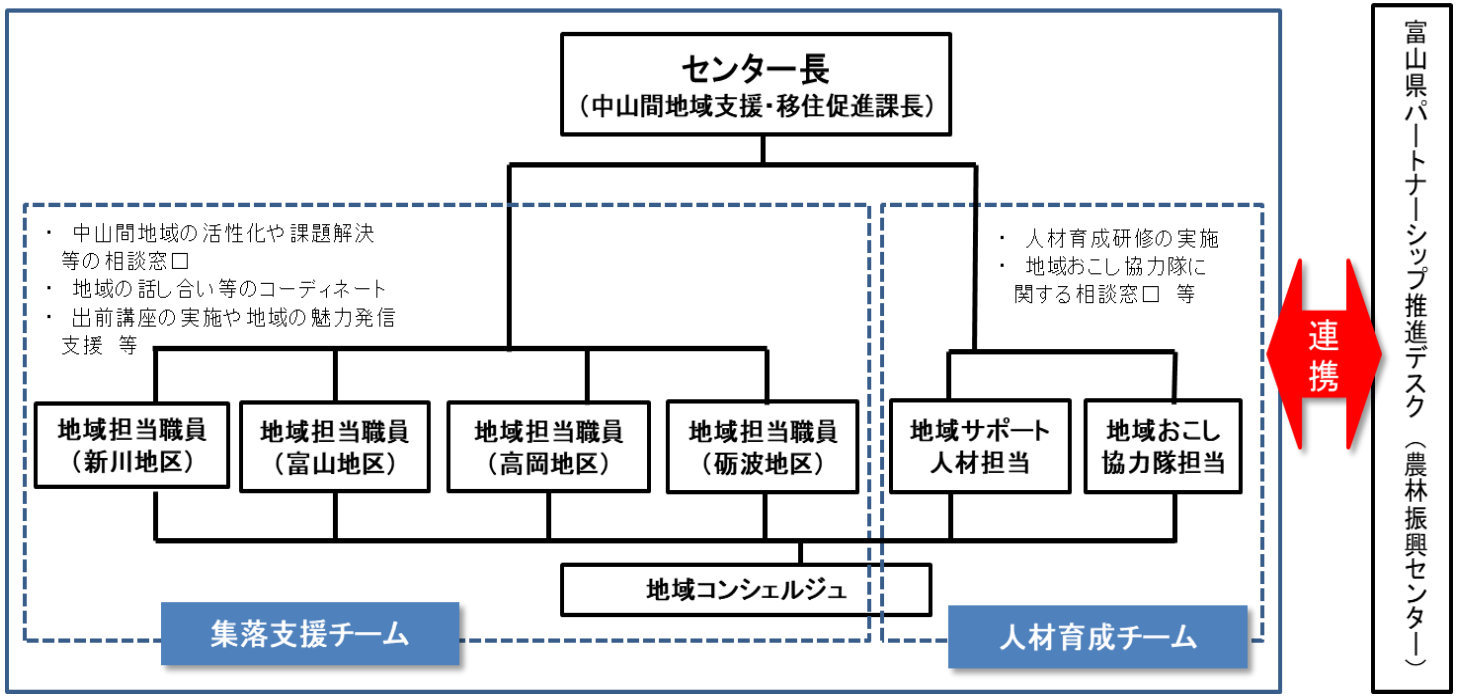
項目	参考指標の動向		考え方
	2024年(度)実績	2029年(度)目標	
県による話し合い支援地区数（累計）	50地区	80地区	年間６地区程度の支援を目指す。
地域運営組織数（累計）	77組織	100組織	一層の地域運営組織の形成を目指す。
若者・女性・移住者が中心となって行う地域活性化活動数（累計）	―	20件	年間４件程度の支援を目指す。
地域づくりの担い手となる人材の育成数(累計延べ人数)（＊）	33名	250名	年間延べ50名程度の地域づくりに関わる方を対象とした人材育成研修への参加を目指す。
県・市町村の移住相談窓口等を通した移住者数（学生Uターンを除く）（＊）	902人	1,150人	年50人程度の増加を目指す。
農林漁業等体験者数（＊）（2023年度実績）	79,554人	100,000人	農山漁村地域への関心の高まりを捉え、着実な増加を目指す。
空き家バンクの年間登録件数（＊）	560件	600件	年600件程度の登録件数を目指す。
里山林の整備面積(累計)	3,716ha	※2026年度に設定予定 ※「富山県森林・林業振興計画」の改訂に合わせて　検討	―
中山間地域における農村環境保全活動に取り組む集落数	548集落	540集落	中山間地域における農村環境保全活動に取り組む集落の減少を防ぎ、着実な農村環境保全活動の継続を目指す。(注1)
地域文化に関係するボランティア活動者数（＊）	14,150人	14,300人	年平均25～30人程度の増加を目指す。

（＊）は県全体での指標
（注1）目標値は、現状の取組水準を維持した場合の集落数の見通しを示したもの。

中山間地域の課題を解決するためのワンストップ型の相談窓口「中山間地域サポートセンター」

○中山間地域の自治振興会や団体等からの相談内容に応じて、関係部局への橋渡しや市町村と連携しながら活用可能な支援策等を紹介。

○専門スタッフの**「地域コンシェルジュ」**と地区担当職員が直接、現地を訪問し、地域課題等の聞き取りや各種相談に対応。





専門スタッフ「地域コンシェルジュ」による話し合いの支援



地域の役員会での課題の聞き取り

中山間地域「話し合い」促進事業

地域に専門家（講師）を派遣し、**住民主体で**自分たちが住み続けたい地域の未来像を**話し合い**、それを**プランとしてまとめる**一連の取組みを支援



[支援実績・予定]
R1～7：57地区　　R8：7地区（見込み）

＜「話し合い」の基本的な流れ（イメージ）＞

第1回 地域の良いところを話そう
地域づくりの講義や実習を通じて話し合いの進め方を学び、参加者同士で地域の魅力を再認識する

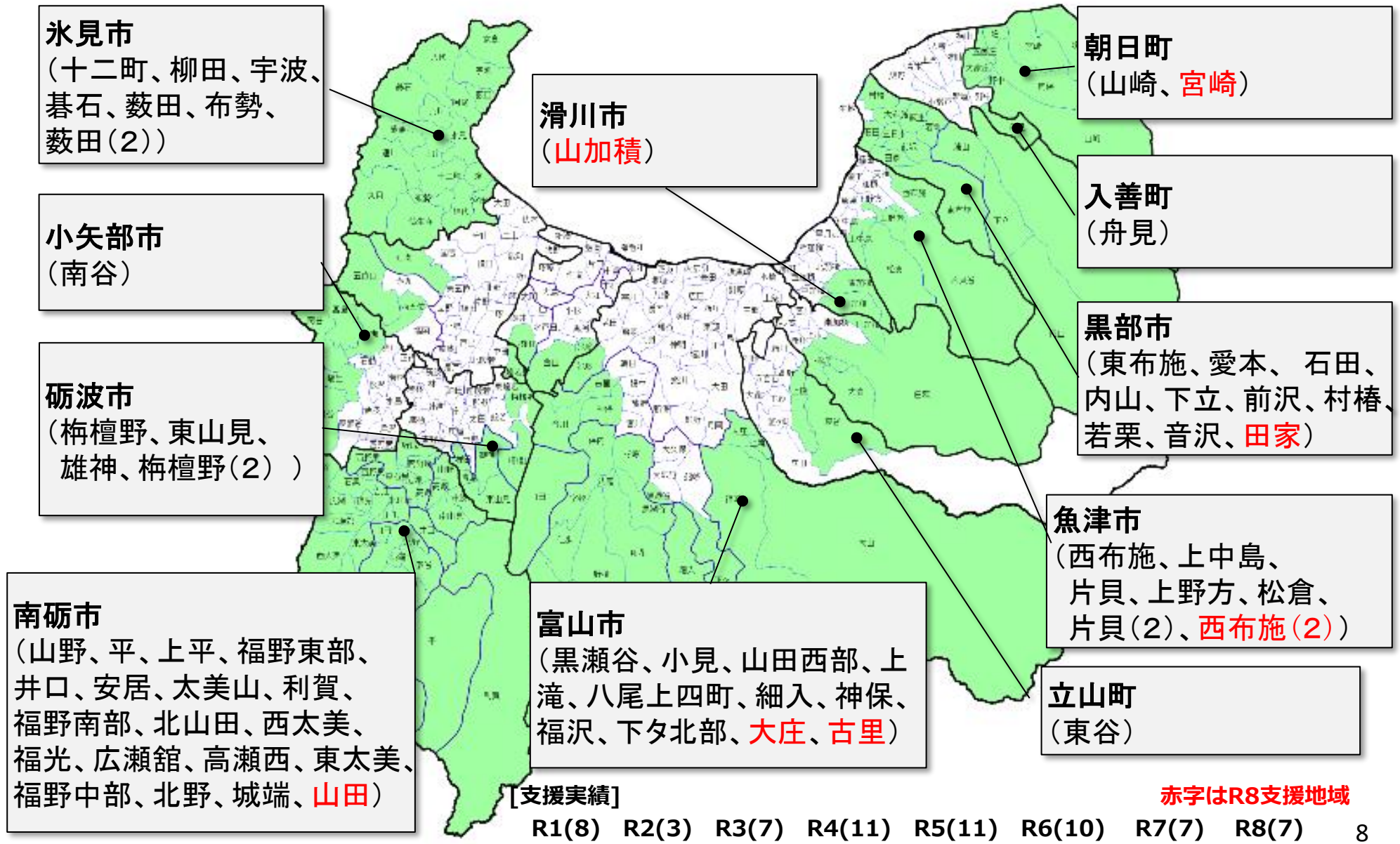
第2回 地域のみらい大予測
住民が地域の望ましい未来像を話し合い、“見える化”する

第3回 まち点検＆アイデア大会
テーマに沿ったまち歩きを行い、地域資源やアイデアを発見

第4回 みんなでつくるアクションプラン
望ましい未来像実現に向けた実施体制、スケジュール、資金調達方法等をアクションプランとしてまとめる

アクションプランの実行にむけた伴走支援
アクションプランの具体的な活動内容の検討や実行までの課題解決のため、専門家派遣によるフォローアップを行う

【参考】中山間地域話し合い促進事業による支援地域（R1～R8：64地域）



氷見市
（十二町、柳田、宇波、
碁石、薮田、布勢、
薮田（2））

小矢部市
（南谷）

砺波市
（栴檀野、東山見、
雄神、栴檀野（2））

南砺市
（山野、平、上平、福野東部、
井口、安居、太美山、利賀、
福野南部、北山田、西太美、
福光、広瀬舘、高瀬西、東太美、
福野中部、北野、城端、山田）

滑川市
（山加積）

富山市
（黒瀬谷、小見、山田西部、上
滝、八尾上四町、細入、神保、
福沢、下タ北部、大庄、古里）

朝日町
（山崎、宮崎）

入善町
（舟見）

黒部市
（東布施、愛本、 石田、
内山、下立、前沢、村椿、
若栗、音沢、田家）

魚津市
（西布施、上中島、
片貝、上野方、松倉、
片貝（2）、西布施（2））

立山町
（東谷）

[支援実績]
R1(8) R2(3) R3(7) R4(11) R5(11) R6(10) R7(7) R8(7)

赤字はR8支援地域

中山間地域「みらい型」地域活動デザイン事業（R8～）

○ 専門家派遣、運営サポート

（１）目的

人口減少により負担が増す中、地域活動の見直しを通じて、負担の軽減や誰もが参加しやすい形を目指す地域の取り組みを推進するもの

（２）対象

自治振興会、地域運営組織、複数集落（自治会、町内会等）など

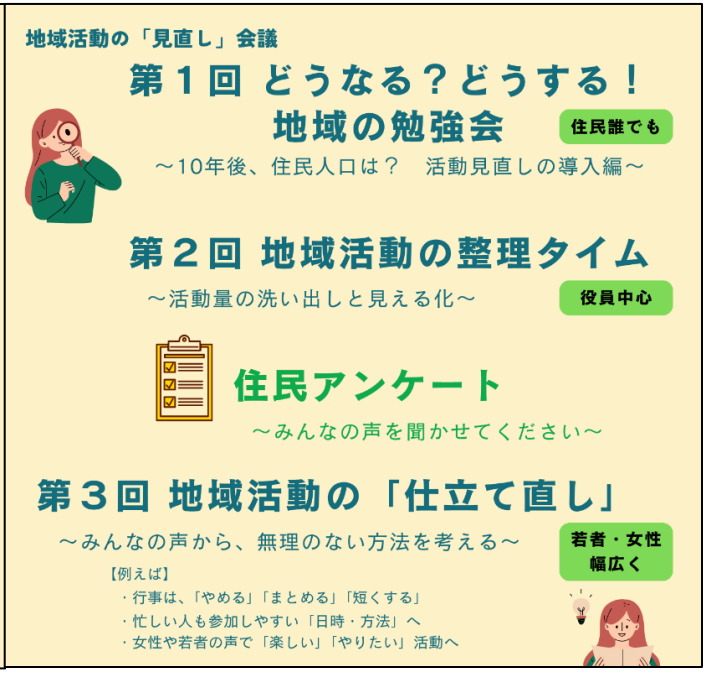
（３）参集者

地域の各種団体の役員、若者、女性、関心のある住民

（４）実施地区（３地区）

朝日町笹川、富山市山田、富山市音川





○ 情報交換会の開催

（１）目的

県内各地で地域づくりに取り組む団体や住民が、自らの活動や工夫を紹介し合い、学びや気づきを共有するとともに、地域を越えたつながりを深め、新たな連携や今後の活動の発展につなげる。

（２）ブース出展方式情報交換会

・日時　令和８年11月
・内容　団体PRタイム、ブース交流、交流会
・参加者　100名想定

（３）現地勉強会

・日時　令和９年１月中下旬
・参加者　25名想定



中山間地域チャレンジ支援事業

中山間地域の活性化のため、集落や団体、企業等が地域の実情に応じ創意工夫を活かして行う試行的活動を支援

施策の概要

■**事業主体**：**中山間地域の**地域団体、地域運営組織、法人、団体等

■**支援対象とする取組み**

① 新商品開発、販路開拓（特産品の開発、販路の開拓 等）
② 生活支援サービス（コミュニティバスの仕組みづくり、移動販売による買い物支援）
③ 伝統文化の継承（伝統芸能や祭りの継承・復活）
④ 定住促進の支援（空き家調査、住居の斡旋）
⑤ 農業生産活動の支援（農作業の支援システムづくり）
⑥ 農業参入者の促進（農作業の指導、農地や空き家の斡旋）
⑦ デジタル技術活用等による地域の課題解決の取り組み（アプリでの安否確認と見守りシステムの運用）
⑧ その他地域活性化を目指す取組

■**募集の方法**：県HPの掲載やチラシ配布による公募

■**助成額と採択予定件数**

新 ①多様な人材、次世代支援（ソフト事業）：上限25万円（定額）/年×最大３年間　４件程度
※女性、移住者、若者（49才以下）のいずれかが活動の主導的立場であること

②ﾌｧｰｽﾄｽﾃｯﾌﾟ支援（ソフト事業）：上限25万円（定額）/年×最大３年間　８件程度

③ｽﾃｯﾌﾟｱｯﾌﾟ支援（ソフト事業）：上限50万円（定額）/年×最大３年間　３件程度

④ハード支援：補助率1/2 × 補助上限100万円以内　２件程度（ソフト実施中の団体）

⑤地域間連携支援（ソフト事業、ハード事業）…複数の地区等が一体（共同申請）で実施
標準補助額100万円/年×最大３年間（ソフト定額、ハード補助率1/2）　１件程度

移住者受入モデル地域への支援(ソフト・ハード)の概要

モデル地域の選定

取組み意欲のある地域、自治会等 ⇔ 協働 ⇔ 市町村　※随時受付

県 → 移住者受入モデル地域提案
実行委員会:市町村と地元自治会等で構成

県 → モデル地域として選定
活動への助言

これまでに選定したモデル地域
(地元自治会等による移住者受入促進の取組みを支援)



事業の内容

移住者受入モデル地域育成支援事業(限度額1000万円)

○ソフト事業・ハード事業の両面から、モデル地域を支援。
○好事例はセミナー等で各市町村と共有し、ワンチームでの移住者増加を目指す。

ソフト事業(限度額300万円)

①受入促進計画の作成(1年目～)　補助:県1/2、市町村1/2

計画の内容
①10年後のめざすべき姿、②地域が求める定住者像
③移住希望者の現地視察受入れ方法、④地域における役割分担
⑤空き家等を活用した地域の宿泊体験・交流施設の整備計画　など

【取組内容(例)】・実行委員会の開催　・先進地視察　・空き家調査
・計画書作成のコンサル委託など

②計画の実施(計画作成後～5年目)　補助:県1/2、市町村1/2

【取組内容(例)】
・東京等でのセミナー開催
・雑誌への移住者募集広告掲載など情報発信
・最新技術を用いた地域PR(VR、メタバース、分身ロボットなど)
・移住希望者の現地視察受入れ　など

ハード事業(限度額700万円)

○宿泊体験・交流施設を中心とした地域づくり活動に必要な備品整備
・特産品開発に必要な備品、伝統工芸の体験に必要な備品・道具等

補助:県45/100　市町村45/100　地域10/100

○移住希望者の受入・交流に必要な施設等の整備
・移住希望者との地域住民の交流施設、伝統工芸体験施設等

補助:県1/2、市町村1/2
または　県5/12　市町村5/12　地域1/6

人材育成

まちづくり×ビジネス実践人材育成事業

- まちづくりの担い手を発掘・育成するため、県内の意欲のある人材に対し、トライアルプロジェクト（PoC）の手法を活用した実践的な研修プログラムを実施

スタートコース：24名受講中／定員20名

→活動の一歩を踏み出したい方向け

ステップアップコース：2プロジェクト採択・活動中

→活動をさらに加速・発展させたい方向け



AI基盤を活用した地域連携プラットフォームの構築（「Digi-PoC TOYAMA」実証実験プロジェクト）

- AI 技術を活用した地域連携プラットフォームを富山県内で展開し、地域活動プレイヤー相互のマッチング・つながり創出を促進するとともに、潜在層の地域活動への参加促進の可能性を実証



現在、地域連携プラットフォーム（アプリ）を開発中

地域連携プラットフォームのイメージ

理想とするプラットフォームの姿：可視化（マッピング）を基盤とした、補助的なAIマッチング機能

- まずは県内の地域資源や活動・課題をマッピング等により「可視化」し、偶発的なつながりや情報発見のきっかけを提供する
- そのうえで、AIマッチング機能は、必要なときに活用できる「補助的ツール」として位置づける
- プレイヤーが自身の活動を積極的にPRできる媒体としての価値も提供し、困っていないプレイヤーにも参加メリットを提示する

① 地域資源の可視化（マッピング） ― プラットフォームの主軸 ―

県内の「誰が・どこで・どのような活動をしているのか」「誰が・どこで・何に困っているのか」などを可視化

可視化する情報の例

活動・資源
- 団体・個人のプロフィール
- 活動内容・テーマ
- 活動エリア・拠点
- 実績・特徴・強み　など

困りごと・ニーズ
- 課題・困りごと
- 求めている支援・協力
- 解決したいテーマ　など

その他
- イベント・講座情報
- 施設・拠点情報
- 支援制度・補助金情報　など

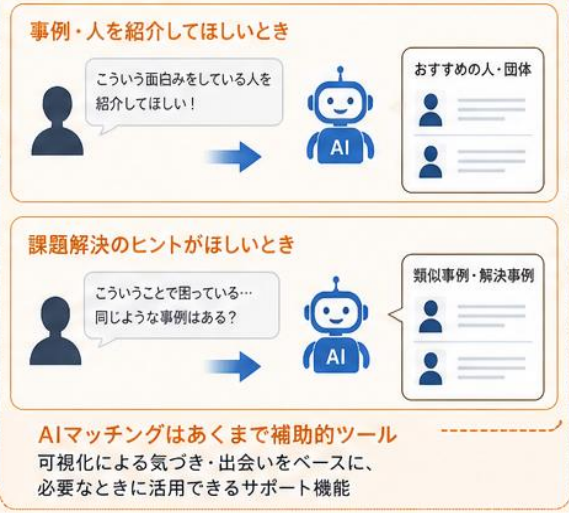


＋

② AIマッチング機能（補助的ツール）

必要なときに、AIが最適な人・事例をレコメンドし、マッチングをサポート

活用シーンの例



AIマッチングはあくまで補助的ツール
可視化による気づき・出会いをベースに、必要なときに活用できるサポート機能

プレイヤーがプラットフォームに参加するメリット

困っている人・課題を持つ人にとって

- **最適な人・事例に出会いやすくなる**
  課題解決のヒントや協力者が見つかる
- **同じ課題を持つ仲間とつながれる**
  情報交換や学び合いができる
- **マッチング機能で効率的に解決へ**
  AIが最適な相手や事例をレコメンド

困っていない人・活動を発信したい人にとって

- **自身の活動を積極的にPRできる**
  多くの人に知ってもらい、共感や応援を獲得できる
- **新たなつながりやコラボのきっかけに**
  思いがけない出会いから新しい価値が生まれる
- **地域全体の活性化に貢献できる**
  自分の活動が地域の未来につながる

可視化 × AIマッチングで、地域のつながりと可能性を最大化するプラットフォームへ

地域おこし協力隊

県内の地域おこし協力隊の現状

隊員数

60人

（R8.7.1現在）

受入自治体

14/16自治体

（15市町村＋県）



定着率（任期終了後の定着割合）

74.3%

全国 70.3%

（出典：令和7年度地域おこし協力隊の定着状況等に係る調査）

男女比



男 58%

女 42%

年代別構成比

20代	30代	40代	50代	60代～
37%	21%	35%	6%	1%

主な活動分野

地域振興／移住定住支援／農業振興／観光振興　など多彩な分野で活動中

県隊員の状況（令和7年度に県として初めて隊員を採用）

R7: 4名	移住情報発信	協力隊受入促進	スポーツ振興	観光ライター
R8: 4名	「すし県とやま」発信隊（2名）	多文化地域交流サポーター	都市と農村をつなぐ“ハブ人材”	

県における取組み

○ **<u>現役隊員への支援と活動の発信</u>**

・相談窓口の設置、現役隊員向け研修の実施、隊員活動の理解促進を目的とした活動報告会の開催等

○ **<u>募集・受入支援の強化</u>**

・国の専門家派遣制度活用の周知、市町村職員向け隊員募集企画研修会の開催　等

○ **<u>市町村域を越えた隊員の交流促進</u>（チャットツールを活用したコミュニティの設置）**



都市圏での移住フェアの開催

富山くらし・しごとフェアの開催@東京

第1回：6/21（日）、第2回：11/7（土）

- 県内市町村、企業、先輩移住者、関係団体が出展し、移住検討者向けのイベントを開催。
- R8は、移住前の関係人口を取り込むため、「先輩移住者による錫を使ったワークショップ」、「寿司といえば富山DAOブース」、「観光以上、移住未満ブース」を新たに設置。

会場の様子



先輩移住者セミナー



ワークショップ



不動産情報・スーパーのチラシ



託児スペース



北陸三県移住フェアの開催@東京・大阪

東京：2/6（土）、大阪：10/31（土）

- 「北陸」と間口を広げることで、特に移住先を絞っていない層へのアプローチを強化するため、石川県・福井県と合同で移住フェアを開催。
- 近年の関西圏での移住検討者の増加を踏まえ、R8は従来の東京（R7～実施）に加え、大阪でも開催。

会場の様子



マスコットキャラクター
グリーティング



移住相談員セミナー



北陸三県比較コーナー



ワークショップ



このほか、他団体が主催する全国規模の移住フェアに年間10回程度参加

「地域とつながる」富山暮らし体験事業

○　富山県で**２週間滞在**し、地域と交流するとともにその体験をSNS投稿してもらうことで、**深く地域と関わりながら、暮らしを体験**。
○　受入地域においては、**現地サポーターに滞在の中間支援**をしてもらいながら、地域ならではの体験・交流を提供。
　→（参加者）地域への愛着を形成し、**将来的な関係人口化や移住**を目指す。
　→（地　域）**関係人口や移住者の受入に向けた機運を醸成**するとともに、**受入体制の構築や地域人材の育成を促進**する。
○　6/20から射水市、上市町で募集を開始し、申込者：65名と順調に推移（9/30時点）。8月から来訪が本格化。



関係人口の拡大

中山間地域ﾌｨｰﾙﾄﾞｽﾀﾃﾞｨ政策協働推進事業

東京大学との連携事業。学生が中山間地域の住民との交流等を通じて地域の魅力や課題を体感し
活性化策や解決策を立案・発表

R8実施中

富山市池多地区（実施期間：R8.6~R8.3）

廃校を利用した中山間地域の未来づくりと地域に関わる人が挑戦しやすい環境づくりをテーマに課題解決策を模索






R7実績

氷見市速川地区（実施期間： R7.6~R8.3）

「コミュニティ」の再構築と「稼ぐ地域づくり」への転換をテーマに課題解決策を模索




富山市細入地区（実施期間：R7.6~R8.3）

地域の持続可能な発展を図っていくための移住・定住促進策等を模索




関係人口による地域活性化モデル事業

ふるさと住民登録制度の令和9年度の本格運用を見据え、市町村と連携し、関係人口や県外企業が地域課題の解決に関与する１０のプロジェクトをモデル的に実施

実施期間：R8.9月～12月　参加人数：50名程度

受入地域	想定される活動内容
富山市細入	飛騨街道のジオ・歴史深掘りツアーと交流拠点を考えるプロジェクト
高岡市中心市街地	地元職人と関わりながら、産地の未来を共創するプロジェクト
魚津市西布施	りんご収穫体験など農作業体験プロジェクト
氷見市久目	ファンコミュニティ立上げ・体験ツアー開発・空き家活用プロジェクト
滑川市全域	一緒に作るハロウィン＆自転車ツアー開発プロジェクト
黒部市前沢	そば収穫祭など農業×イベントで仕掛ける地域おこしプロジェクト
南砺市利賀	新たな観光コンテンツ・アイディア創出プロジェクト
射水市大門	凧まつりから大門の未来へ。仕掛ける魅力発信プロジェクト
上市町全域	おおかみこどもの花の家の清掃と農作業体験プロジェクト
立山町釜ヶ渕	お米・果樹の栽培体験など農村×地域イベント企画プロジェクト

企業を通じた募集

事業の目的

農業・観光・イベント等を通じて地域住民と協働・交流

観光でも移住でもない“ゆるやかな関わり”を育み、地域の持続発展につなげる



「週末とやま農村Life」推進事業

【事業趣旨】

富山県内の魅力的な地域資源を有効に活用し、農作業、農村暮らし、伝統文化の体験を通じた地域との交流を行う「週末とやま農村Life」を開催し、都市との交流による農山漁村の活性化を図るとともに、富山県への関係人口を拡大・深化させ、将来的に二拠点化につなげることに資することを目的とする。

【令和７年度実施状況】（令和8年度予定）

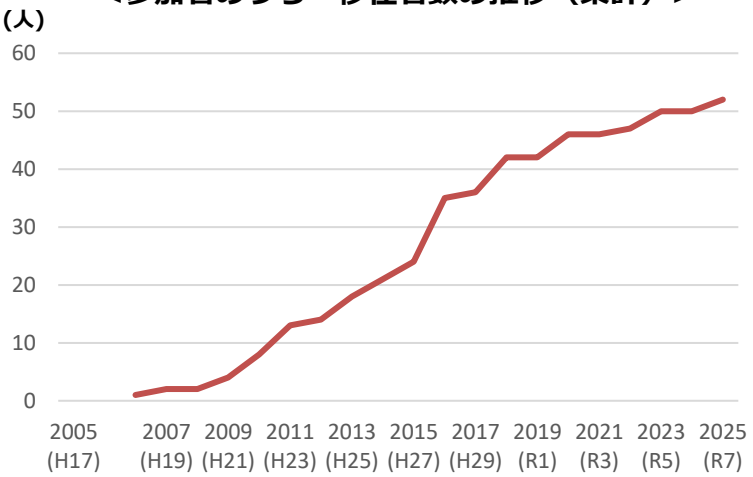
・開講回数　県内７市町で全８講座
　　（8市町9講座）
・参加人数　延べ48名[うち、県外31名]
・首都圏でのＰＲ活動

【移住・定住の実績】※令和７年度末時点

・延べ参加者　1,794名
・うち、県外参加者　1,240名（実人数513名）
・参加者のうち、県内に定住者　47名
・参加者のうち、県内に半定住者　５名

市町村名	ラボ名	開催日
氷見市	灘浦ラボ	5/24、25
南砺市	南砺ラボ	6/6～8
朝日町	笹川ラボ	6/21、22
魚津市	魚津片貝ラボ	9/20、21
立山町	立山ラボ	10/17～19
高岡市	国吉ラボ	10/25、26
富山市	やまだ村ラボ	11/7～9
南砺市	利賀村ラボ	2/21、22

<参加者のうち　移住者数の推移（累計）>




魚さばき体験（灘浦ラボ）


里芋植付け体験（南砺ラボ）


酪農体験（国吉ラボ）

とやま農業・農村サポーター活動支援事業

【事業趣旨】

過疎化や高齢化によって地域活動の継続が困難になりつつある中山間地域の集落と、農作業や農村でのボランティア活動に参加したい「農業・農村サポーター」のマッチングを行う。

【実施状況】

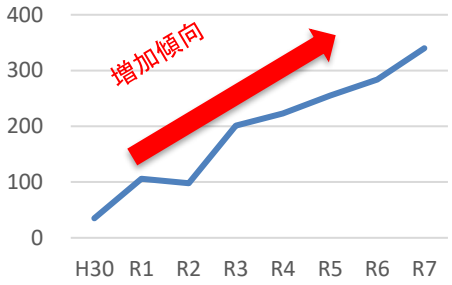
＜令和７年度実績＞　（令和8年度予定）

活動地域数　15地域　（24地域）
活動回数　24回　（　26回）
延べ参加者数　340名

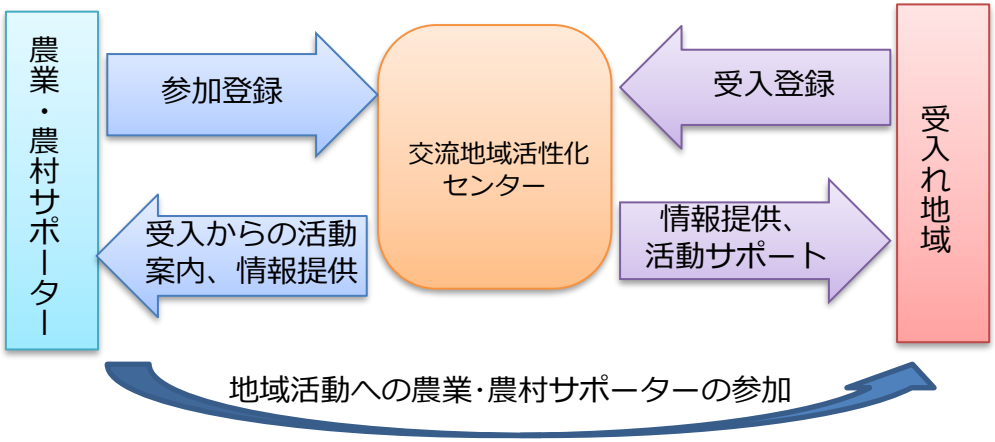
＜主な活動内容＞

用水路の江ざらい、草刈り・除草作業、
農作物の定植・収穫作業、
鳥獣侵入防止柵設置　など

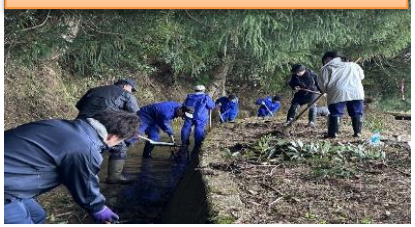
《農業･農村サポーター参加者数の推移》



《マッチングイメージ》



用水路の江ざらい



鳥獣侵入防止柵の設置



エゴマ畑の除草



みかん畑の草刈り



里芋の収穫



シャクヤクの花がら摘み



パートナーシップ推進事業

【事業趣旨】

過疎化や高齢化の進行に伴う荒廃農地の増加や集落機能の低下が懸念されている中山間地域において、課題を抱える集落等と地域貢献や農業活動等に参加したい企業や団体とのマッチングを行う。

【実施状況】

・各農林振興センター内に「パートナーシップ推進デスク」を設置し、地域と企業や団体の意向を基にしたマッチングを実施。
・令和７年度は、県内12地区でマッチング支援（協働活動）を行い、うち２地区において協定を締結。

《マッチングイメージ》



活動の希望
相手の照会・選考
マッチング
合意形成
活動の実施

《令和７年度協定締結実績》

集落等	企業・団体	活動内容
小羽地区広域集落協定（富山市）	学校法人浦山学園 富山情報ビジネス専門学校	農作業・環境整備活動、地域での交流体験活動、地域課題解決に向けた活動　等
世界遺産相倉合掌造り集落保存財団（富山市）	株式会社クイック	環境整備活動（棚田の保全活動及び茅場の保全活動等）地域での交流体験活動、地域課題解決に向けた活動　等

小羽地区広域集落協定×富山情報ビジネス専門学校（パートナーシップ協定の締結）



西布施ぶどう組合×新川高等学校



釜ヶ渕みらい協議会×ネッツトヨタ富山(株)



砺波市東別所上村集落×VC富山



これまでの取組みと今後の方向性（案）

これまでの取組み

- 地域課題の把握・相談対応 ・・・・P6
- 地域の話し合い・ビジョンづくり支援 ・・・・P7～P9
- 地域活動の実践・チャレンジ支援 ・・・・P10～11
- 地域づくりを担う人材育成 ・・・・P12～13
- 地域おこし協力隊の受入・定着支援 ・・・・P14
- 移住・定住促進 ・・・・P15～16
- 大学との連携による地域課題解決 ・・・・P17
- 関係人口の創出・拡大 ・・・・P18～20
- 企業との連携による地域活性化 ・・・・P21

今後の方向性（案）

- **地域活動の継続・発展を支援する機能が必要ではないか。**
- **地域と多様な主体（関係人口・大学・企業等）をつなぐ機能が必要ではないか。**
- **地域間連携や中間支援組織をつなぐ県域機能が必要ではないか。**

これまでの富山県中山間地域創生総合戦略検討会における主な意見

○地域づくりを継続して支える伴走支援機能

・地域の話し合い促進後の今後の課題は、地区ビジョン策定後も立ち止まらないようフォローアップし、モチベートし続けること。地域が自ら変化し続ける力を育む支援が重要。
・地域の主体性を尊重した支援が持続性を左右する。「外部から人を入れる」だけでなく、**地域の受け皿整備や地域住民への支援が重要**。**中山間地域ほど泥臭い支援が重要**であり、地域の人を応援していくことが大切。
・地域の自立的な組織化や活動をサポートする仕組みが重要ではないか。
・関係人口や移住者を受け入れるための接着剤・クッションとなる地域組織への支援が必要。

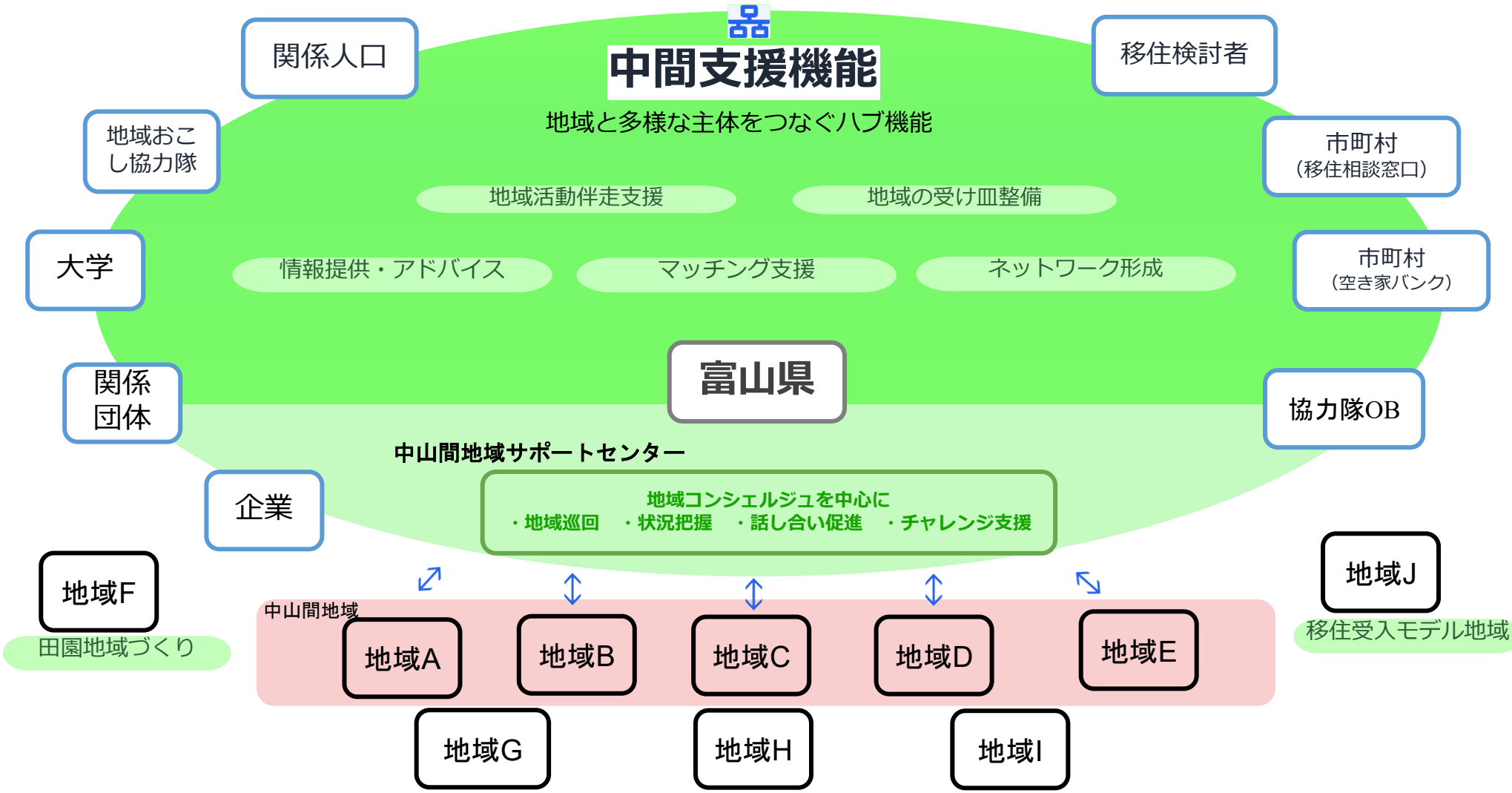
○地域と多様な主体をつなぐ「接着剤」機能

・地域と地域（や移住者、事業者等）をつなげる**「接着剤人材」が重要**。
・接着人材やサポート組織によって、地域の取っ掛かりづくりや地域との接続を支援する必要がある。
・接着剤人材が動きやすい環境づくりが必要。

○県域で中間支援機能を担う体制

・**各地域の中間支援組織を県域でネットワーク化する**ことは県にしかできない。
・行政主導のネットワークではなく、住民発の圏域を網羅するような中間支援組織があると施策の展開も変わってくると思う。
・中間支援組織ももっと充実させていくべき。行政の外郭団体的なものではなく、経営的には自立したような民間の中間支援組織が必須だと思う。

中間支援機能に期待される役割



中間支援機能に期待される役割

